

全国協議会 ニュース

2009年1月1日発行
第199号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

新年のご挨拶

全国骨髄バンク推進連絡協議会
会長 大谷貴子



新年、あけましておめでとう
ございます。今年も、どうぞよ
ろしく願っています。

昨年は、骨髄バンクへのご登
録者が30万人になったことか
ら始まり、ご提供者が1万人
になったことで締めくくられる
とともに、心に残る一年となり
ました。あらためまして、骨髄バ
ンク事業を様々な形で応援して
くださいました方々、皆様に心
から感謝を申し上げます。

さて、今年も、昨年よりさら
に飛躍をしなければなりません。
そのためには山積している課題、
例えばドナー休暇制度の拡大な
ど提供環境の整備に向け、早急
に解決していきたいと考えてお
ります。それは、すべて患者さ
んの笑顔につながります。

今年も、患者さんの笑顔をま
ぶたに浮かべながら、一段、一
段、階段をあがるように邁進し
て参りたいと存じます。どうぞ、
今年も、皆様方のお知恵とお力
を拝借したく、よろしくお願
い申し上げます。

白血病などの血液難病の患者
の方々に骨髄移植の機会を広く
公平に提供することを目的とす
る骨髄バンク事業は、今年度、
事業開始から18年目を迎えます
この間、会員の皆様方をはじめ
多くの関係者の方々の御尽力に
より、ドナー登録者は32万人を
超え、また、骨髄バンクを介し
て行われた骨髄移植は1万例を
超えました。

これらひとえに、ドナー登録
をされた方々や実際に骨髄を提
供された方々の善意はもろもろ
のこと、バンク事業に携わる関
係者の方々に並びに全国各地でバ
ンクを支えていただいているボ
ランティアの皆様方の御理解、
御支援の賜物であります。

また、貴協議会におかれま
しては、ドナーや患者の方々が抱
える不安や疑問について相談窓
口を設けるといったサポート活
動のほか、骨髄移植一万余例・さ
い帯血移植五千例の到達を記念
し、各地で行われる「ありがとう
キャンペーン」の開催など、
骨髄バンクの普及啓発に広く貢
献されてきました。これらの活
動に対し、この場をお借りいた
しまして深く敬意と感謝の意を
申し上げます。

厚生労働省臓器移植対策室と
いたしまして、より一層ド
ナー登録への理解が進むよう、
今後とも関係機関と連携して普
及啓発活動等による事業の推進
に努めてまいりますとともに、
移植希望者数並びに移植件数の
増加に対応するため、あつせん
体制の強化を図り、一人でも多
くの患者さんが骨髄移植を受け
られるよう、造血幹細胞移植対
策に全力で取り組んでまいりま
す。

結びに、貴協議会のますます
の御支援、御協力を賜りますよ
う心からお願ひ申し上げますと
ともに、会員皆様方の御健勝、
御活躍を心より御祈念いたしま
して、新年の御挨拶とさせてい
たきます。

謹んで新年のお慶びを申し上
げます。

我が国の骨髄バンク事業は多
くの皆様にご協力いただき、有
効ドナー登録者数は目標の30万
人、骨髄移植数も一万余例とい
う一つの区切りを迎えました。こ
れも偏に貴協議会をはじめ、全
国のボランティアの皆様や関係
者の皆様のご尽力の賜物と深く
敬意を表します。

しかし、まだ大勢の患者さん
が移植を待ち望んでおられ、こ
れは一つの通過点に過ぎません。
日本赤十字社では、今後とも登
録受付窓口のより良い環境づく
りや検査体制の一層の充実を図
り、関係者の皆様と一丸となつ
て骨髄バンク事業の更なる伸展
に向けて取り組む所存です。

最後に、貴協議会のご発展と
皆様のご健勝を祈念して、挨拶
とさせていただきます。

謹んで新年のご挨拶を申し上
げます。

昨年1月にドナー登録者が
30万人に到達し、12月には仲介
した骨髄移植が累計一万余例に到
達いたしました。また、年間の
移植数も一千百例を超え過去最
高となり、着実に実績として伸
びてきております。これらはボ
ランティアの皆様や関係者のご
尽力の賜物であり、厚くお礼を
申し上げます。しかし、登録患
者数は増加する傾向にある中、
移植率は約六割にとどまってお
ります。

本年も、ドナー登録を更に推
進するとともに、より一層の
コーディネート期間短縮やド
ナー安全対策の強化などに努め

てまいりたいと思ひます。

これからも骨髄バンクとこれ
まで以上に密接な連携を保ち、
移植を待つ患者さんのために共
に努力しつつ、一層の発展を目
指していきたいと思ひます。さ
い帯血バンク事業に対するま
ますのご理解とご支援をお願い
するとともに、新年が皆様にと
りまして、より良い年となりま
すよう祈念いたします。

日本赤十字社
血液事業本部長 西本 至

東海北陸地区
12月6日、東海北陸ブロック
セミナーが名古屋市総合社会福
祉会館小会議室にて開催されま
した。三重2名、岐阜3名、愛
知11名が参加し、患者相談、支
援のあり方について議論したの
ち、医療講演会に参加しました。
当日はあいちの会主催の患者相
談会も開催し、患者さん、ご家
族との直接的な関わりも体験し
ました。各団体、支援の難し
さを議論し、今後の活動のヒント
を得たような気がしました。

講演会は移植後の合併症につ
いて、安城更生病院血液内科
澤正史先生、名古屋第一赤十字
病院婦人科 安藤智子先生のお
話しをうかがいました。私自身

年始にあたり、旧年中に皆様
から賜りましたご支援ご協力に
対し、厚く御礼申し上げます。

求め、患者さんの救済へと発展
関係が築かれますように、更に
今年も加盟団体一同頑張つて参
りたいと思ひます。どうぞご支
援ご指導の程宜しくお願ひ申し
上げます。

もまだまだ知識不足だと痛感し、
今後の患者さん、ご家族との関
わりにも大きく役にたつ内容と
なっていました。

（あいち 水谷）

ご挨拶を申し上げます。



財団法人骨髄移植推進財団
理事長 正岡 徹

日本さい帯血バンクネットワーク
会長 中林正雄

宮崎
青島から都城へ
いま宮崎が熱い!!

12月14日、第22回国際青島太
平洋マラソン会場にて、本会議
主催の骨髄バンク啓発活動と、
宮崎県中央保健所さん主催の骨
髄バンクドナー登録会にてボラ
ンティア活動して参りました。

前日の選手受付時より「骨髄
バンク知っていますか?」と「全
国骨髄バンクボランティアの集
いin都城 来年5月開催」の
ゼッケンを付けて走っていた
ける啓発ランナーを募集したと

（中村）

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

ゲストラランナーとして走られ
た東国原英夫知事（フル）、河
野俊嗣副知事（ハーフ）、往
年の名ランナーである山田敬蔵さ
ん（ハーフ）と君原健二さん（フ
ル）、特別参加のエリック・ワ
イナイナさん、猫ひろしさん（フ
ル）らが、大いにイベントを盛
り上げてくださいました。そし
て、今回一万二千名という全
国からランナーとして参戦され
ました皆様……お疲れ様でした。
たくさんのファイトと思ひやり
の輪に……感謝！感謝！感動！
また次回もお会いしましょう！

全国骨髄バンク推進連絡協議会
理事長 中野勝博

（あいち 水谷）

心からのご寄付に 感謝申し上げます

11月21日～12月20日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
㈱エイコー堂	現金	100,000円
豊島区明るい社会づくりの会	現金	100,000円
宮代町立百間中学校生徒会	現金	26,936円
宮代町立百間中学校PTA	現金	20,000円
鹿児島市立吉田南中学校	現金	30,311円
塩谷 圭	現金	1,000円
山田康博	現金	9,880円
鈴木純子	現金	1,340円
飛田行康	現金	11,000円
匿名	現金	20,000円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	68,222円
hide memorial summit出演者の皆様	現金	1,420,000円
セシリア音楽教室 東海林知津子	現金	100,000円

●白血病患者支援基金

㈱グルメシティ北海道万代店	現金	3,466円
すみれ薬局	現金	5,269円
骨髄バンク、GATHERの会	現金	8,695円
徳島藍ライオンズクラブ	現金	7,000円
さかえ薬局	現金	3,640円
たにぐち薬局	現金	7,302円
匿名	現金	35,500円
匿名	現金	81,268円
㈱金寿司	現金	18,000円

●佐藤さち子患者支援基金

松本敏子	現金	3,000円
「Beads Stand」佐藤久美子	現金	7,000円

(敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

非血縁者間
骨髄移植
10,000例・
さい帯血移植
5,000例到達

ありがとうキャンペーン第一弾 銀座で記念パレードと 街頭宣伝活動

1993年1月に日本骨髄バンク第一例の骨髄移植が、そして1997年2月に国内初の非血縁者間さい帯血移植が行われました。そして2008年12月2日、さい帯血バンクを通じた移植が五千例に、翌3日には骨髄バンクを通じた移植が一万例に到達しました。

非血縁者間
骨髄移植
10,000例・
さい帯血移植
5,000例到達

厚生労働省で記者会見

12月4日、厚生労働省記者クラブにおいて、12月2日のさい帯血移植五千例到達と、翌3日の骨髄移植一万例到達を報告する記者会見が開かれました。正岡徹骨髄移植推進財団理事長の司会のもと、小林正雄日本さい帯血バンクネットワーク会長と中野勝博全国協議会理事長が同席し、これまでの経緯が報告され、今後更なる充実が期待される造血細胞移植医療に対する国民への協力が呼び掛けられました。

引き続き、全国協議会として、元気になった患者さんと提供したドナーさんにも出席いただき、これから全国各地で展開する「ありがとうキャンペーン」の記者発表を行いました。阪神大震災の3日後に骨髄移植を受けて元気になった名川和志さん(兵庫県在住)は、「震災で大変な中、多くの方々の協力があったが無事に移植が行え今の自分がある。多くの方に感謝している」とコメント。成人でのさい帯血移植第一号である佐藤ときえさ



さん、ボランティアほか約百名で東京・銀座をパレードしました。ゆるキャラ日本一に輝いた秋田県の広報主任スギツチや大谷会長の地元加須市のこいのぼり君、サンタクロースなどと一緒「ありがとう」「これからよろしく」と沿道の方に手を振りながら行進しました。その後、銀座数寄屋橋交番横のチャンスセンター前で、チラシと記念シールを配布しながら、歩行者の皆さんに理解と支援、そして協力を呼びかけました。ありがとうキャンペーンを記念して作ったこのシールは、長年骨髄バンクのボランティアを応援してくれている「キティちゃん」と、やなせたかしさんデザインのだい帯血バンクネットワークのシンボル「ぎずなちゃん」が「日本骨髄バンクのロゴマーク」

を捧げ持つ、コラボレートデザインです。当日はこれ以上は望めないという程の晴天に恵まれ、厚生労働省、日本赤十字社、骨髄移植推進財団、さい帯血バンクネットワークなど、これまで造血細胞移植事業に携わった関係者の皆様にも多数ご参加いただきました。一番嬉しかったことは、このような行事に初めて参加したという方がたくさんいらっしゃったことです。私達の知らないところでいろいろな方が呼びかけをして下さったのだなと感じ、暖かい気持ちになりました。大勢の方に支えられて活動が続いている事に感謝して、これからも活動を一緒に頑張ろうという元気を貰えたキャンペーンでした。

●井田正美さん

さい帯血移植を受けた息子、主人と3人で参加しました。みんなで一緒に歩くことが出来てとても良かったです。沿道で偶然友人にも会ってびっくりしました。

●鈴木忠志さん

骨髄移植を受けた1万人の患者の一人としてパレードに参加しました。GVHDに苦しみました。再生つばさのスタッフにも後押しされて行きました。顔見知りの方もいて安心しつつも、恥ずかしくて声は出せませんでした。でも銀座の真ん中をパレードして、少しは一般の皆さんに関心を持っていただくことが出来たのではないかと思います。

●中村福代さん

人間ひとりひとは孤独の中で生きていくけれど、骨髄移植1万例・さい帯血移植5千例：時空間を超えて繋がった人々がいました。私も、骨髄バンクを介して骨髄提供者となりましたが、この縁に『ありがとう』そして、ドナーを支えてくれた周

り理解と温かい思いやりの『ありがとう』を気付かされた。移植を受けた元気になられた方も一緒にパレードで歩きました。気持ちは15000人の患者さんと、その数倍の適合者の方々と共に歩いた気分です。もともととどろき「おもいやりの輪」みんな元気なあれ。

ありがとうキャンペーン協賛金・寄付	
(11/21~12/20)	
ヤマト徽章株式会社	25,000円
大宮中央ライオンズクラブ	50,000円
福豊帝酸株式会社	50,000円
セルジーン株式会社	100,000円
鷲宮ライオンズクラブ	5,000円
森脇嘉三	5,000円
田中統一	5,000円
横山秀夫	10,000円
榎金寿司	5,000円
	(敬称略)



全協第1936号
2008年12月22日

財団法人骨髄移植推進財団
理事長 正岡 徹 様

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
理事長 中野 勝博

「骨髄移植10000例・さい帯血移植5000例ありがとうキャンペーン」実行委員会における
貴財団出席者の対応について (質問)

拝啓 歳末ご多忙の折、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、12月2日にさい帯血バンクを介した非血縁者間さい帯血移植が5000例、翌3日には骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄移植が10000例に到達しました。これに先立ち、貴財団、日本さい帯血バンクネットワークならびに全国協議会は、この機会を記念した「ありがとうキャンペーン」の実施に向けて8月25日に実行委員会を立ち上げ、3回にわたり具体的な事業内容について検討してきました。しかし残念ながら、共同記者会見の実施と第31回造血細胞移植学会での発表以外は合意に至らないまま、実行委員会は解散することとなりました。

それぞれの組織にはそれぞれの立場・意見があるのは当然であり、それにより必ずしも合意に至らないことはやむを得ないことです。しかしながら、多くの委員がそれぞれの立場を主張しつつも相手の意見も尊重し建設的な議論をしている最中に、貴財団を代表して参加されていた常務理事が、高圧的で会議をかく乱する発言を繰り返したことは誠に遺憾であります。

骨髄バンクの事業主体として関係機関との良好な関係構築に努めなければならない立場の常務理事のこのような態度は、事業を推進する上で極めて悪影響を及ぼすものであると言わざるを得ません。これが貴財団の対外交渉のスタンスであるならば、貴財団の良識が著しく疑われることになりかねないと思慮されますので、関係機関と円滑に協調した事業を推進する社会的責任を果たすためには、このような態度は早急に改善されるべきものであらうと思慮いたします。

つきましては、今回の件に関し、貴財団最高責任者である貴職の見解をお伺いし、下記の点について質問いたしますので、2009年1月9日(金)までに文書にてご回答くださいますようお願い申し上げます。なお、本質問状につきましては、全国協議会ニュース2009新年号の誌面で公開するとともに、貴職からのご回答につきましても全国協議会ニュースにて報告させていただきますのでご承知おきください。

敬具

財団に
2つの質問書を提出

質問事項

1. 実行委員会における貴財団常務理事の発言は、貴財団としてオーソライズされた公式見解として理解してよいのでしょうか。
2. 貴財団常務理事の実行委員会における態度は、貴財団の渉外のあり方として妥当なものとお考えでしょうか。
3. 貴財団の今回のような対応は、骨髄バンクの普及推進に悪影響を及ぼしかねないと思慮しております。今後、貴財団が関係機関とどのような関係を構築していきたいとお考えでしょうか。また、そのためにどのように取り組んでいくつもりでしょうか。

以上

全協第1937号
2008年12月22日

財団法人骨髄移植推進財団
理事長 正岡 徹 様

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
理事長 中野 勝博

MONTHLY REPORT 12月15日号掲載記事について (質問)

拝啓 歳末ご多忙の折、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、貴財団発行のMONTHLY REPORT (平成20年12月15日号)に、「『東京の会通信200号』編集雑誌に対して」という記事が掲載されました。これは、貴財団常務理事である平井氏の文責で書かれたもので、同通信の編集雑誌に対する平井氏の個人的見解が示されたものであります。

このMONTHLY REPORTはそもそも、骨髄バンクの現状やトピックを広く発信するためのものであり、国民に向けた骨髄バンク事業に関する情報公開や普及啓発がその使命であると考えます。この目的に照らし合わせると、今回の記事はMONTHLY REPORTの趣旨にそぐわないものであり、財団の公の媒体を単なる個人的な問題のために利用したものと一言わざるを得ません。

また、MONTHLY REPORTは財団のホームページにも掲載されており、不特定多数の人が閲覧できるものであります。このような性質を考慮するに、今回のような個人的な意見表明にMONTHLY REPORTを使用することは、正確な事情を理解し得ない多くの国民に対して不当に一方的な認識を植え付けるものであり、誤解を招くことになりかねません。とくに公益事業者としては、意識の誘導と受け止められかねない行為は厳に慎むべきと思慮いたします。

つきましては、今回の件に関し、財団最高責任者である貴職の見解をお伺いし、下記の点について質問いたしますので、2009年1月9日(金)までに文書にてご回答くださいますようお願い申し上げます。なお、本質問状につきましては、全国協議会ニュース新年号の誌面で公開するとともに、貴職からのご回答につきましても全国協議会ニュースにて報告させていただきますのでご承知おきください。

敬具

質問事項

1. 貴財団として、今回の記事は掲載が妥当であったとお考えでしょうか。また、それはいかなる理由によるものでしょうか。
2. 情報の発信はきわめて慎重に取り扱われるべき業務です。MONTHLY REPORTの掲載記事はどのようなプロセスで決定されているのでしょうか。
3. 貴財団として、公益事業者の情報提供のあり方をどのようにお考えでしょうか。

以上